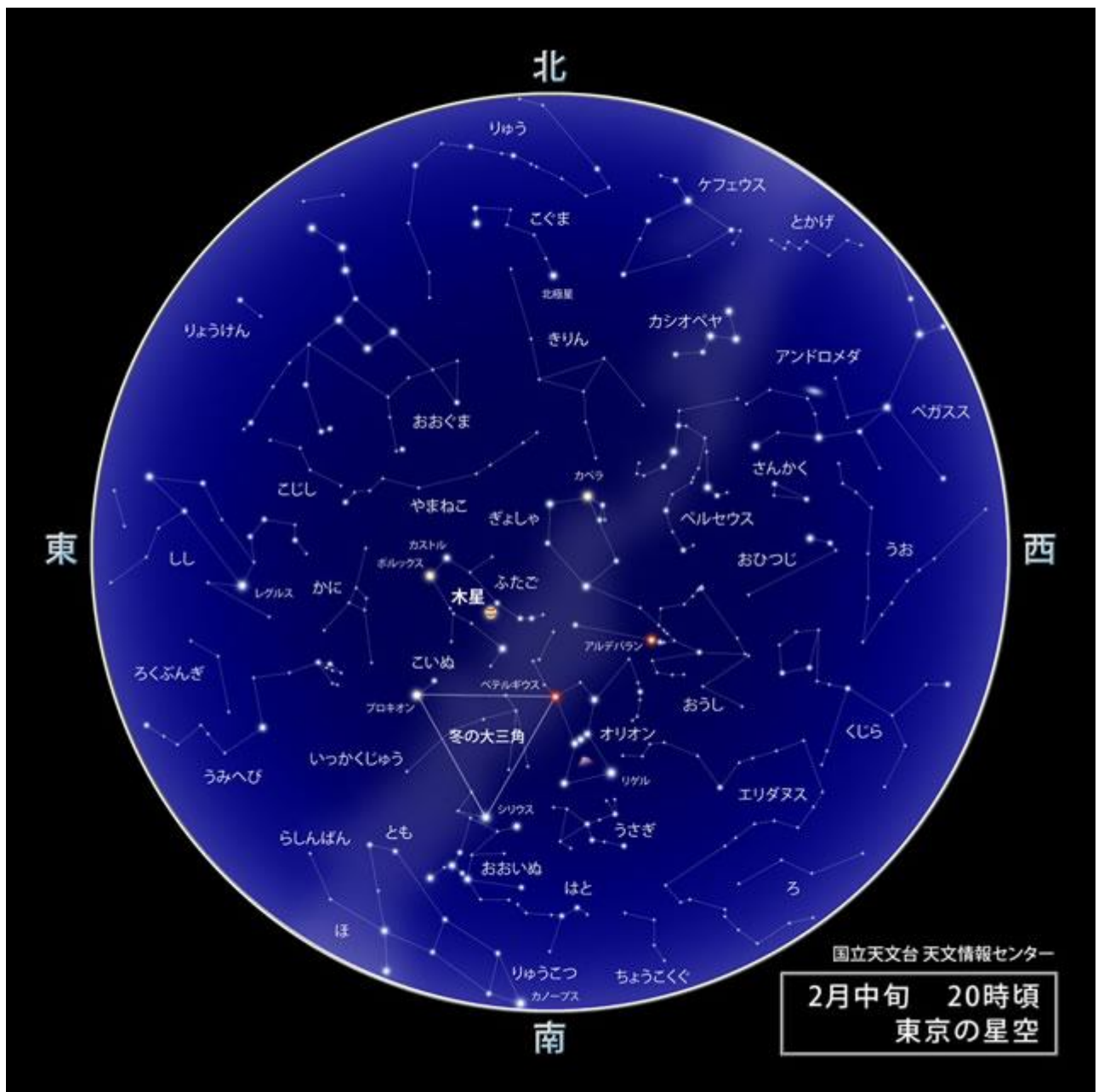


寒さ真っ盛りの2月ですが、この頃が一年中で一番空が澄んでいて星空がクッキリ見えています。

都会で見る星ボシも目が慣れてくると、思っていた数以上が見えてきます。双眼鏡や望遠鏡等で見ると想像以上に奥深い宇宙が覗けるかも知れませんね。(地域の観望会や教育館の催しに一度参加して見てください、色々な面白いお話も聞けると思います。)

月半ばの夜半の南の空には全天で最も明るい恒星、おおいぬ座のシリウスとこいぬ座のプロキオン、オリオン座のベテルギウスを結んだ冬の三大角が良いアクセントになって目を引いています、空の澄んでいる場所であれば冬の天の川も見える事でしょう。



南の空に簡単に見つけられるオリオン座の大星雲を見つけてみませんか？

夜空に輝いている恒星とは違いガス（宇宙のチリ）が中心の星に輝かされて光っている星雲です、写真等で見ると色鮮かで複雑に入り組んでいる雲の細かいディテールがわかります、この雲の中にはこれから誕生してくる星の卵が非常に多く観測されるそうです、肉眼で見るとこの様には見えませんが、何となくモヤモヤした物が有り明らかに恒星とは違う天体だとわかります。

双眼鏡などで見るとある程度の面積を持った星雲がはっきりと見られます。

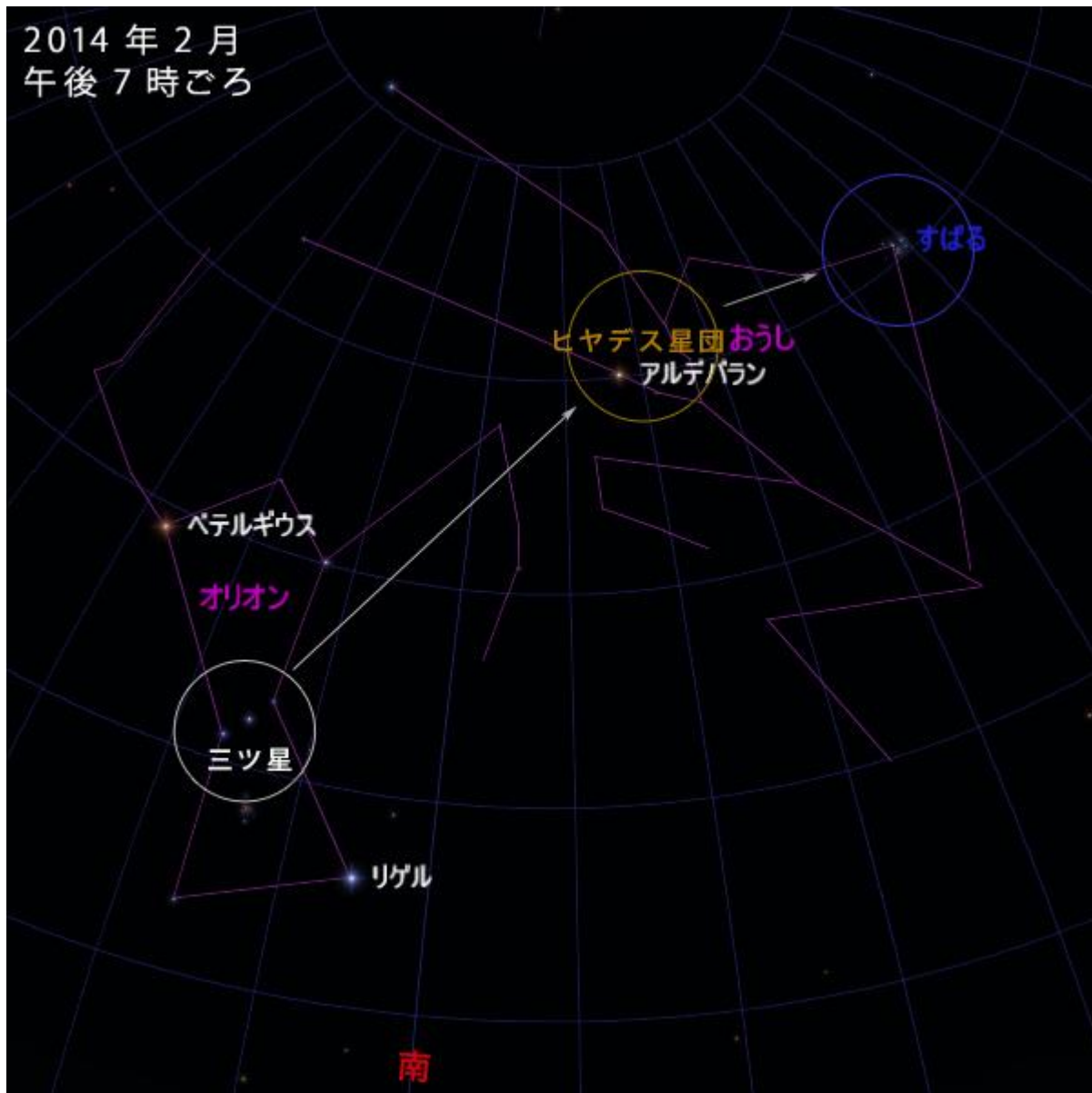


冬の大きな星の赤い星（ベテルギウス）を含む四角形の形をしているオリオン座、その中心に可愛く三つ並んでいる三ツ星、その下に見える小三ツ星の中に見られます。

（M42 星雲）オリオン座大星雲と呼ばれています。

もう一つ今度は星団を見つけよう、オリオン座の右上に有るおうし座の中にあるヒアデス星団 40 個程の星が 30 光年位の距離にかたまっている散開星団です（地球から

の距離は約150光年程度)、おうし座のアルデバラン(1等星)の近くに見えます、その少し上に肉眼でみると6個ほどの星がかたまって見えるプレアデス星団(M45)(距離は400光年位)双眼鏡で見るとさらに多くの星が見えてきます、この星団は日本でも昔から知られているもので和名も、すばる、羽子板星、六つら星等其々の地域によって呼び名が色々あるそうです。



以前にも書きましたがオリオン座の左上に有る赤い星ベテルギウス星、やはりこの星は何時超新星爆発を起こしてもおかしくない星であるみたいですが、星までの距離は500光年ほどである為現在爆発をしていても不思議でないみたいです。

もし、爆発したら-10数等星となり、昼でもはっきり見える位に明るく輝くそうです。

個人的では有りますが一度超新星の爆発の瞬間をみてみたいものです。

まだまだ寒い時期は続きますが風邪等をひかない様に御自愛ください。